

(10) 取締機器整備経費（無人航空機・スマートグラス）

(単位:百万円)

府省名	調査主体	6年度予算額	7年度予算案	増▲減額	反映額
財務省	本省調査	12,233の内数	12,328の内数	95の内数	▲11

事案の概要

税関では、「安全・安心な社会の実現」、「適正かつ公平な関税等の徴収」及び「貿易円滑化の推進」という3つの使命を果たし、貿易の健全な発展と安全な社会の実現に努めている。しかしながら、税関を取り巻く環境は、越境電子商取引（EC）の拡大による輸入許可件数の急増及び経済連携協定等の更なる進展等による国際的な商流・物流の変化、経済安全保障上の脅威への対処等、大きく変化している。その中で、密輸手口の巧妙化に対し、先端技術を活用した税関業務の効率化に資する施策の一つとして、無人航空機及びスマートグラスを導入している。無人航空機及びスマートグラスについては、導入後一定の期間が経過していることから効果等の検証を行った。

調査結果の概要及び今後の改善点・検討の方向性

1. 無人航空機の活用について
2. スマートグラスの活用について

- 無人航空機については、天候により使用が制限されるため、当初想定していた港湾地区や島しょ部での使用に適しているとは言い難い。港湾管理者への包括申請の必要性が各税関で横展開できていない。事務的な問題は配備前に解決すべき。

使用実績に乏しく、導入効果の検証も行えない現下の状況では、**新たな配備については認められない。**

- スマートグラスについては、検査の効率化が確認できたことから、有用性が認められる。

一方で、ハンズフリーの検査によるメリットよりも使い勝手を現場職員は求めており、今後の機器の導入に当たっては、現在と同等のパフォーマンスを前提に、**スマートフォンへの機器の切替えを含めた効果的な機器の導入に努めるべき。**

- 先端技術の導入に当たっては、既存機器を活用しての対応の可否、当該技術の活用事例を基にした使用方策の検討を徹底した上で、スポット導入による効果の検証を行うべき。

反映の内容等

1. 無人航空機の活用について
2. スマートグラスの活用について

- 無人航空機については、

飛行に係る申請に関して、**各港湾管理者の状況を取りまとめ、包括申請の必要性を各税関に周知しており、令和7年前半を目途に各税関において各地域の関係機関と必要な調整を行うこととしている。**

その上で、今後、**既存機器による使用実績を蓄積し、導入効果の検証を行うこととしている。**

また、執行状況等を踏まえ、**運用経費を見直し予算額を減額した。**
(反映額：▲7百万円)

- スマートグラスについては、

検査の効率化において有用性が認められたところ、**引き続き、好事例の共有に努めるなど効果的な活用にも努める。**

スマートグラスの活用状況等を踏まえ、**サーバ容量等の見直しを行い、予算額に反映した。**(反映額：▲4百万円)

今後の機器の導入に当たっては、**スマートグラスからスマートフォンへの機器の切替えを検討している。**

- 今後の先端技術の導入に当たっては、**既存機器を活用しての対応の可否の検討、本格導入前に実証実験を行うなど、検証を踏まえた上で、行うこととしている。**